

日本ケーブルラボの ケーブルテレビ事業の高度化への資格試験制度

～地域放送事業を基に望む新ICT人材キャリアパス“JQE”～

JQE

JLabs Qualified Engineer

ケーブルテレビ業界は、海外事業者によるインターネット動画配信サービスの市場拡大、多チャンネルサービスや再放送サービスのIP化に向けた検討など大きな変化に直面しております。また、ブロードバンドのインターネットサービスでは、国内大手の通信事業者とのサービス競争が激化しており、超高速・大容量なFTTH方式への早期移行が求められています。「オールIP化」という大きな技術的変化を迎えている状況の中で、一般社団法人日本ケーブルラボ（JLabs / Japan Cable Laboratories、以下「日本ケーブルラボ」）は、業界における「技術のシンクタンク」として、新たな調査研究を行うとともに、JQE（JLabs Qualified Engineer）資格試験の実施を通じて、これからの業界を担う中核的な技術人材の育成に尽力されています。JQEについて、最新情報を関係者に取材致しました。

（編集構成：弊誌編集担当、取材協力：日本ケーブルラボ）



2022年度前期JQE資格認定証授与式での集合写真
（2022年11月18日撮影）

◆日本ケーブルラボと JQE 資格をご紹介します。

日本ケーブルラボは、2009年10月に一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟から独立・設置されたケーブルテレビ事業者のための「技術のシンクタンク」です。現在、ケーブルテレビ事業者179社が参加しています。

主な事業は、ケーブルテレビに関連する最新技術の動向調査やケーブルテレビ機器の運用仕様の策定、運用仕様に基づく機器の認定審査などを行っています。

また、ケーブルテレビ事業者の技術者育成も日本ケーブルラボの事業の重要な柱の1つであり、その一環としてJQE資格取得のための講習会や検定試験を2016年度から実施しています。

◆どのような人が受験されるのでしょうか？

JQE資格は、各ケーブルテレビ事業者において、更なる放送サービスの高度化を目指したり、新しいICT技術を基に新たな事業展開を図ることができる技術者を育成することを目的としています。また、設備のメンテナンスの効率化や自動化、Wi-Fiや地域BWAなどの無線システムやIoTの活用など幅広い知識を持ったサービス企画もできる技術者の養成を目指しています。

従って、活躍が期待されている若手人材や事業者の期待を担っている中間層の方々が毎年多数受験されて

います。

◆試験合格には何が必要でしょうか？

JQE資格検定試験を受験していただく前に、以下のJQEのテキストに沿った講習会を2日間に亘って受講していただきます。

<テキスト>

科目Ⅰ：放送伝送技術の基礎

科目Ⅱ：ケーブル伝送技術の高度化

科目Ⅲ：ケーブルプラットフォーム技術

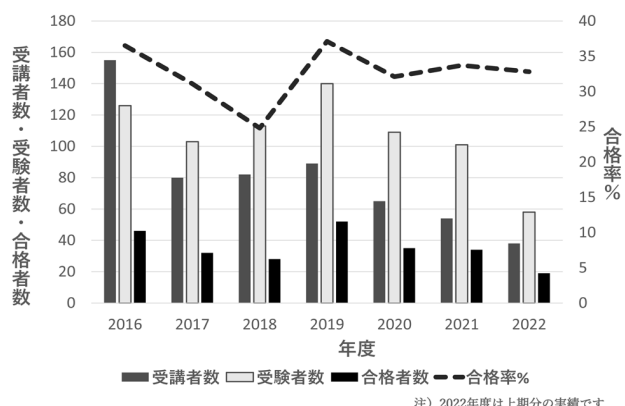
科目Ⅳ：放送の高度化と端末技術

*受講料（テキスト代込）は、JLabs会員：27,500円/JLabs非会員：55,000円。

講習会はWEB会議システムを活用し、講師による動画での講義を受講後、質疑応答はオンラインで行います。従って、受講者は会社や自宅からリモートで参加することができます。

JQE資格検定試験は年に2回、テキストに沿った内容について、CBT（Computer Based Testing）方式で実施しています。CBTは全国142箇所のパソコン教室を利用しており、受験者は最寄りの県庁所在地などの会場で受験することができます。

*受験料は、4科目/6,600円、1科目/1,650円（JLabs会員非会員一律）。



JQE 資格検定講習会受講者・検定試験受験者の推移

JQE 資格検定試験の合格率は30%程度で推移しており難関です。試験に合格するためには、講義をよく聞き、テキストの内容をしっかりと理解することが重要です。

JQE 資格を取得するには、講習会受講後2年以内にⅠ～Ⅳの全ての科目で合格する必要がありますが、不合格になった科目だけを次回以降に受験することが可能です。

◆合格された方はどのような活躍をされておりますか？

ケーブルテレビ事業を巡る環境は、大きな変革期を迎えています。ケーブルテレビ事業は、これまでは加入者が順調に増えてきていましたが、最近では、インターネット系の動画配信サービスが普及し、ブロードバンドサービスも更なる高速化が求められています。

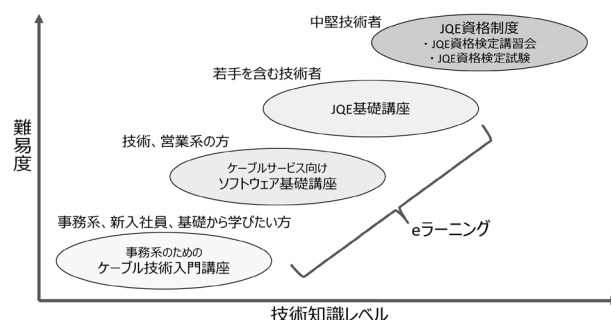
JQE 資格の取得者は、このような環境変化に対して、新たな技術や新たなサービスの導入を率先して企画したり、新たな取組にチャレンジしたりすることを期待されています。

ケーブルテレビ事業者には、こうした人材の育成を図るため、JQE 資格の取得のための費用を支給したり、資格取得者に手当を支給したりするケースもあります。

日本ケーブルラボは、中小企業等経営強化法に基づく「有線テレビジョン放送業における経営力向上推進機関」として総務大臣に認定を受けており、ケーブルテレビ事業者によっては、講習会の受講費用に対する助成金受給申請ができます。

◆JQE 以外の人材育成プログラムについてお聞かせ下さい。

ケーブルテレビ事業者の社員には、従事する職種や経験に応じて、さまざまなレベルの技術的知識が必要とされます。そこで、日本ケーブルラボでは、JQE 資格制度に加え、各種の人材育成プログラムをeラーニング形式で提供しています。



日本ケーブルラボの人材育成プログラムの体系

具体的には、スキルレベルに応じて、

- (1) JQE 基礎講座
- (2) ケーブルサービス向けソフトウェア基礎講座
- (3) 事務系のためのケーブル技術入門講座

の3つのコースを用意しています。

これらのコースは、年間を通じて受講することができ、また、個人で申し込むことも、団体として申し込むことも可能です。

また、近年、ケーブルテレビ事業者にとって、サイバーセキュリティ対策がますます重要になっています。そこで、一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟と連携し「セキュリティ・ハンズオンセミナー」を2020年度から実施し、ケーブルテレビ事業者が実践的な対策を取れるように研修しています。

その他にも、隔月でワークショップを開催し、ケーブルテレビに関連する最新の技術動向や海外動向などを紹介しています。

事業環境が大きく変化する中、ケーブルテレビ業界の発展を支えるのは人材であり、日本ケーブルラボとしては、技術の面からその育成に貢献していくことを使命としています。



日本ケーブルラボでJQE 資格を担当する役職員の皆様

*各関係者の方からの当紙面編集ご協力、厚く御礼申し上げます。

■ 連絡先：一般社団法人日本ケーブルラボ

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-4-2 KDX ビル

TEL：03-5614-6100 FAX：03-5614-6101

E-mail：jqe_shikaku@jllabs.or.jp

*** JQE / ケーブルテレビ事業経営者からの期待 ***



塩冶 憲司 氏
株式会社 CCJ 代表取締役社長

◆ ケーブルテレビ事業者にとって JQE 資格取得の意義や目的は？

ケーブルテレビ事業運営における設備（放送設備、通信設備）を安全に運営していくことは、重要な要素です。初期の頃、そのような業務はメーカーさんに頼りながら運営していくことでしたが、設備構成が多様なサービスに対応していくことを考え、複数メーカー（いわゆるマルチベンダー化）による運用が進み自前での管理運営が求められています。よって現在では多種多様な資格を取得し、新たなサービス、特にデジタルが基本の現在、オール IP による運用が必要です。その中で一般社団法人日本 CATV 技術協会が実施している「CATV 技術者資格」は基礎として重要な資格制度であり、ある程度経験を積んで実務者として設備運営の理解が進めば、日本ケーブルラボの JQE 資格取得にチャレンジするというのが現在の

の資格制度への理解です。

◆ 本資格推奨社内制度や合格取得した社員に対する期待は？

ある程度、本人の自主性に任せてあります。資格を取得した社員には報奨金の支給制度を設けております。

JQE 資格を取得した社員には、日常業務の中で新しいサービスが生み出せる様な技術開発やオール IP 時代の新しい設備運営のあり方の創出を期待いたします。JQE 資格は資格を取得したところから更に進化していけるような制度になっていくと良いと思います。これは日本ケーブルラボに期待します。また「JQE 資格取得の意義や目的」という設問への回答になるかもしれません。全国の JQE 資格者が会社を超えてコミュニケーションし、最新の運用技術やアイデアなどを共有しあえる様なになれば、JQE 資格制度の更なる進化が期待できると思います。

■ 連絡先：〒 510-0093 三重県四日市市本町 8 番 2 号
TEL：059-359-5060 FAX：059-359-5061
<https://www.ccj-gr.co.jp>



斎藤 重成 氏
JCOM 株式会社
常務執行役員 技術部門長

◆ JQE 資格について、どのようにお考えでしょうか。

日々の業務を進める中で、社員は各部署に特化した専門の技術知識やスキルを磨くことはもちろん大事ですが、ケーブルテレビ事業者を支える技術知識を幅広く習得することも全体最適の観点から重要です。JQE 資格は、ケーブルテレビの運用、設備仕様に関する全般的な技術知識を網羅的に習得していることを証明するもので、ケーブルテレビ事業者が学ぶべき最新技術も適時その内容に含めていると伺っています。社員が JQE 資格取得を通して網羅的な技術知識を身に着けることで、俯瞰的な視点で技術計画、建設、保守、運用といった各部署の業務を行える人材の育成につながるものと考えています。

◆ 本資格取得推奨のための社内取組みはありますか？

弊社では、技術社員に取得を勧めたい資格については、受検費用などの一部を会社で負担しており、JQE 資格もその推奨資格に含めています。各推奨資格には重要度・難易度に基づきポイントを設けており、年間の合計ポイントが規定以上に達すると表彰することとしていますが、JQE 資

格は高ポイントの資格の 1 つとし受検への動機付けを高めています。

JQE 資格を取得した社員は、これから取得しようとする社員に対し、JQE 資格取得により業務の根底にある技術や仕組みの理解を深めることができたとの思いをシェアし、社内 SNS の場などを通じて合格に向けた対策や心得などのアドバイスを提供しています。

◆ 合格・資格を取得した社員に対する期待をお聞かせください。

JQE 資格取得の難易度は、高いと理解していますが、これは、業界の発展に役立つ人材を育成しようとする日本ケーブルラボの JQE 資格に込めた意思がこの背景にあると思います。受検者は資格取得のために苦労するわけですが、資格取得で得た広範な技術知識と同程度に、この資格取得のプロセスで得た「技術知識を習得する力」が大事であると考えており、資格取得者に対しては、この力を継続的に発揮し、新しい技術を習得し続けることを期待しています。こうした社員が、お客様にとって品質が高く、安定した、信頼性の高いサービスの提供を先導し、これまでにない新たな価値をお客様に届けることができると考えています。

■ 連絡先：〒 100-0005
東京都千代田区丸の内 1-8-1 丸の内トラストタワー N 館
<https://www.jcom.co.jp/>

* JQE資格取得試験 合格の声 *

＜質問項目＞ A: 受験への動機、B: 仕事と勉強時間について、C: 難関分野対策について、D: 当日の試験について、E: 合格後、ご自身や職場、顧客先での反応について

川北 修平 氏 ＜2017年12月資格取得＞
株式会社 シー・ティー・ワイ (CTY)
技術部技術課

A: 既に社内で2名取得者がおり、社内外で活躍している姿を見て私自身もそうなりたく強く思いました。また、CATV 全般の知識、技術力の向上に繋がると感じ挑戦したいと思いました。

B: どれだけ遅くても毎日1時間は参考書を読むと計画して勉強を始めました。厳しい日もありましたが、勉強の時間を作れるよう部内のメンバーから業務調整などのフォローがあったこと、帰宅してからは家族のサポートがあって何とかできたと思います。

C: 参考書を何度も繰り返し読みました。並行して部内の知見のある方に分からない部分を聞き、現場に則した知識の理解を深めました。

D: 少し不安な気持ちもありましたが、やれるだけのことはやったと自負していましたので緊張などはありませんでした。結果発表の日の方が緊張していたと思います。

E: 取得後に出張先など外出先で声をかけていただく機会が増えました。目的でもあったCATV 関係全般の知識を有していると社内でも認知されていると感じます。



川口 和希 氏 ＜2022年8月資格取得＞
JCOM株式会社
技術部門技術運用本部放送運用部



A: 当社ではJQE 資格が推奨資格となっており、以前に資格取得した上司や同僚からの薦めがあった事、ケーブル技術全体を通貫して学び直したいという想いからこの度の資格取得に至りました

B: 放送設備の企画・運用業務に携わっている事から日頃よりラボ仕様書を参照する機会があり、JQE 資格の勉強が業務知識の習熟にもつながり、相乗効果を得ながら進める事が出来ました。

C: DOCSIS や PON、5G といった通信規格、技術仕様については知識が浅かったため、当社の通信サービスがどのような技術・規格を使用しているのかを調べながら理解を深めていきました。

D: 問題文を見るまで多少の不安はありましたが、JQE 講習会のテキストを反復して読み込んでいましたので、落ち着いて受験する事ができました。

E: JQE 資格は当社の推奨資格の中でも最も重要度・難易度の高い資格の1つとされており、ケーブル技術に対する一定の知識を習得した証として、上司からも評価してもらえていると感じています。

山脇 良子 氏 ＜2019年12月資格取得＞
JCOM 株式会社
技術部門技術企画本部アクセスネットワーク企画部



A: 技術社員の推奨資格としてJQE が含まれていて、部内で受験者を募った際に資格の概要を初めて知りました。自分の業務経験が活かせる資格と感じ、受験に至りました。

B: 事前の講習会が2日間ありましたのでそこで集中して試験範囲を学びました。その後も試験前日まで勉強すると決めた時間は勉強だけに集中するよう、オンオフの切替を心がけました。

C: とにかく何度も講習会テキストを読み返しました。テキストは図解が多く、業務経験がなかった分野についてもある程度は理解できたと思います。

D: 4科目とも時間ギリギリだったと記憶していますが、講習会テキストの内容を理解すればどれも無理なく解ける問題だと感じました。

E: JQE 取得をきっかけにCATV の伝送技術を学習することで、結果として技術を企画検討する際に非常に役立つことが部内に浸透してきたと思います。

豊田 峰都 氏 ＜2022年8月資格取得＞
株式会社コミュニティネットワークセンター (CNCI)
技術本部 SMS・プラットフォームグループ

A: JQE は会社として取得を推奨している資格であることから知りました。自身の業務の範疇だけではなく、ケーブル業界全体の知識を習得したいと考え受験しました。

B: テキストの内容を自分の言葉・書式でまとめ、反復学習することで、知識の基礎作りの効率化を図りました。

C: 最初からすべてを覚えようとするのではなく、概念やキーワードを点として頭に入れ、徐々につなげていくことで知識を深めていきました。

D: 試験となると理解しきれていないなと感じるところもありましたが、あせらず問題を読み、知識と合わせ考えることで回答することができました。

E: 範囲が広く試験は不安でしたが、一つ成果が出たことで自信をもつことができました。また、業務の中で「JQE で見た内容だ」となることがあり、勉強した甲斐があったと感じています。

